

〔ヤナギ科 外来ポプラ類 *Populus* の和名・学名の混乱を検証する〕 (p4)

## 《2. 改良ポプラ》

改良ポプラの学名は *P. × canadensis* または *P. euroamericana* が用いられるが、*P. × canadensis* を狭円柱樹形のポプラに用いる文献がみられる。(1-3. 参照)

2-1. *canadensis* を狭円柱樹形のポプラに当てる文献一覧 (1-3. 掲載と同)

- ◇*P. × canadensis* ポプラ(セイヨウハコヤナギ)〈大橋1997〉
- ◇*P. × canadensis* Moench. (*P. nigra* L. var. *italica* Duroiを改める \*) セイヨウハコヤナギ(ポプラ)〈長谷川1999〉
- ◇*P. × canadensis* (*P. nigra* var. *italica*) ポプラ(ロンバルジーポプラ、イタリアヤマナラシ)〈野田坂2011〉

2-2. *canadensis* を改良ポプラに当てる文献一覧

- ◇*P. canadensis* A. Rehder (*P. euramericana*) 改良ポプラ(ユーラメリカポプラ)〈森田1973〉
- ◇*P. canadensis* Muench (*P. canadensis* Ait.) (和名なし \*)〈松崎・他1983〉
- ◇*P. × canadensis* Moench. (*P. × euroamericana* Guinier) ポプラ(セイヨウハコヤナギ、改良ポプラ)〈長谷川2001, 2003〉
- ◇*P. × canadensis* (和名なし \*)〈塚本2001〉
- ◇*P. × canadensis* カロリナポプラ(カイリョウポプラ)〈横井2003〉
- ◇*P. × canadensis* カロライナポプラ〈トニー・他2005〉
- ◇*P. × canadensis* ポプラ(セイヨウハコヤナギ)〈コリン・他2007〉
- ◇*P. × canadensis* (*P. × euroamericana*) カイリョウポプラ(カロリナポプラ)〈大場2009〉
- ◇*P. × canadensis* Moench カナダポプラ〈YList2012〉

2-3. *euroamericana* を改良ポプラに当てる文献一覧

- ◇*P. euroamericana* イタリア改良系ポプラ品種〈山崎1956〉
- ◇*P. × euroamericana* Guinier (*P. canadensis* Moench) エウロアメリカナ(改良ポプラ)〈北村四郎・斎藤1989〉
- ◇*P. euroamericana* Rehd 改良ポプラ(ユウロアメリカナポプラ)〈斎藤2001〉
- ◇*P. euroamericana* 改良ポプラ〈矢口2009〉
- ◇*P. × euroamericana* Rehd. エウロアメリカポプラ(改良ポプラ)〈佐藤2011〉

2-4. *euroamericana* と *canadensis* の関係

これについては次のような記述がある。(1-4. 掲載と同)

・森田(1973)によると、「ヨーロッパの *P. nigra*(\*)とアメリカの *P. deltoides*(\*)の雑種のことを、A. Rehderが *P. canadensis* と命名したが、1950年の国際ポプラ委員会において、ユーラメリカポプラ(*P. euramericana* \*)と呼ぶように統一された。日本ではこれらの雑種ポプラを総称して改良ポプラと呼んでいる」とある。

## 2-5. 改良ポプラの由来

## a. 発生

・森田(1973)によると、「ヨーロッパの *P. nigra*(\*)とアメリカの *P. deltoides*(\*)の雑種が、いわゆるイタリー系や改良ポプラといわれるものである。この改良ポプラといわれる雑種ポプラは、アメリカの *P. deltoides*(\*)が18世紀の始めにフランスに導入されて、在来のヨーロッパの *P. nigra*(\*)との間に天然雑種ができて(中略)発見されている」と記されている。

・朝日(1968)によると、「改良ポプラ(\*)は北米に自生していた *P. deltoides*(\*)が欧州に渡り、欧州の *P. nigra*(\*)と天然に交雑してできた雑種に更に手が加えられて生まれた(中略)欧州とアメリカの両方の名をとってユーラアメリカナ(*euroamericana* \*)という名で統一されている」と記されている。

・山崎(1956)によると、「イタリア改良系ポプラ(中略)この改良品種は(中略) *P. euroamericana* と呼ぶ。「ヨーロッパとアメリカ原産の品種のかけ合わせから生まれたもので、(中略)欧州の *P. nigra*(\*)系統と北米の *P. deltoides*(\*)系統との種間交配雑種をつくり、それらの中から(中略)選抜してつくり上げたものである。「我々がポプラというただちに連想するあのホウキを逆立ちさせたような形とはおよそ縁遠い」と記されている。

## b. 世界での推移

・朝日(1968)によると、「イタリアポプラ(改良ポプラ \*)は第二次世界大戦中(中略)木材不足に悩んだイタリアが(中略)150万本ものポプラを交配した結果、よりすぐられたものが I154号(ムッソリーニポプラ \*)である。(中略)更に研究が進み、I214号、別名イタリアの栄光ができて、日本にも輸入された(昭和27年

〔ヤナギ科 外来ポプラ類 *Populus* の和名・学名の混乱を検証する〕 (p5)

1952年 \*)」と記されている。

・濱谷(2007)によると、「第二次世界大戦中の木材不足からイタリアでは *P. nigra* L.ヨーロッパのポプラ、その変種で樹形が箒状となる *P. nigra* L. var. *italica* Koehne やアメリカの *P. deltoides* Marsh.などを使った交雑が行われ、多数の早生の品種すなわちイタリアポプラ(改良ポプラ \*)が作り出された。更に戦後、より多くの種を用いた育種が世界各国で大々的に進められ、多くのいわゆる改良ポプラの品種が作られた」と記されている。

## c. 日本での推移

・森田(1973)によると、「林業的に生産を目的としてポプラの試験研究がはじめられたのは、昭和14年頃に国立林業試験場でポプラの育種に関する研究として、現在の中国から多数の材料が導入されてからといわれる」。「東京大学三好東一名誉教授が、西ドイツの林業労働科学研究所のヒルフ教授から1952年に始めて改良ポプラを導入したのに端を発し、東京大学猪熊教授がイタリーのカザーレモンフェラートにあるポプラ研究所から、いわゆるイタリー改良系のクローンを、1954年から1956年にわたり導入した」と記されている。

・グリーン(1961)によると、「昭和29(1954)年(中略)東大猪熊教授はイタリアのポプラ研究所から、(中略) I 154、214、455の三系を導入した。(中略)我が国のポプラの歴史は在来三種のほか外来数種があったがこれらは改良系のはんちゅうには入らない。改良系の導入は昭和27年に(中略)ドイツ系品種19種、28年にアメリカからOP系十品種の導入があったが、今日のポプラブームのきっかけとなったのはこのイタリア系が最初であった」。「昭和31年にイタリアから直輸入した三品種をもとにして増殖(中略)5年目の35年には保有量が63万本(中略)、成苗として山出ししたものは25万本を数えた」。「養苗着手の当初には巨大種、カマブチ種、カロリナ種など従来の改良系ポプラも相当数あったが、イタリア系の実用品種が増加するにつれてこれらの在来種(従来までの外来種 \*)はおいおい少なくして行った」と記されている。

・松崎・他(1983)によると、*P. angulata* (カロリナ種 \*)明治初年渡来、*P. deltoides* (ナミキドロ \*)明治末年渡来、*P. nigra* var. *italica* (狭円柱樹形 \*)明治中年渡来、と記されている。

## d. 改良ポプラの現状

・生原(2005)によると、「イタリア系を中心にヨーロッパ諸国から100余種の改良ポプラを導入し、日本に適する候補種19種系統を選定した。北海道から本州まで植栽されたが、低温害、病虫害さらに台風の被害などもあり、期待された成果はえられなかった」と記されている。

・森田(1973)によると、「今までわが国に導入された品種の数は100種以上も数えられるが、北海道の各地における10数年間の適応試験や研究の結果から、現段階で推奨できるものとして、5種類があげられている」と記され、表には(*carolinensis* × *nigra* ♀) (*deltoides* × *nigra* ♂) (*angulata* × *nigra* ♂)などがみられる。

・塚本(2001)によると、栽培品種として、'Eugenei'、'Robusta'、'Serotinade Selys' などあげている。

・横井(2003)によると、改良ポプラの栽培品種として、'Aurea'('オウレア')、'Robusta'('ロブスタ')、'Serotina'('セロティナ')、'Serotina Aurea'('セロティナ オウレア')、などをあげている。

・トニー・他(2005)によると、改良ポプラの栽培品種として、'アウレア'、'エウゲネイ'、'ロブスタ'、'セロティナ'、などをあげている。

## 2-6. 改良ポプラの考察

狭円柱樹形のポプラは樹形ではほぼ同定が出来ることや、枝ぶりや葉の形質も安定しており、「1-6. b」でも述べたように、狭円柱樹形のポプラと横張りの枝を持つタイプが多い改良ポプラとを同じ学名のもとに区別しないことは適切ではないと考える。そのうえで改良ポプラの学名は、*P. × canadensis* または *P. × euroamericana* のいずれかに集約される。「2-4」で記した森田(1973)にある、「euroamericana と呼ぶように国際ポプラ委員会で統一された」というのは、分類学の方ではあまり反映されていないようで、euroamericana はどちらかという和林業・園芸関係で用いられることが多いのかも知れない。

なお改良ポプラの形質は成り立ちからみても安定しているとは考えられず、田無(2008)によると、*P. nigra* と *P. deltoides* との雑種に手が加えられた *P. euroamericana* を中心として、*P. alba*、*P. sieboldii*、*P. deltoides* var. *virginiana*、*P. trichocarpa*、*P. maximowiczii*、*P. nigra* var. *caudina*、*P. koreana*、*P. petrica*、*P. regenerata*、などの複雑な掛けあわせがみられ、導入系統もイタリア系、ハンブルグ系、南独系、米国系、英国系、シュツットガルト系、その他多岐にわたっての経路から導入されている。改良ポプラと一括りにしてみてもその形質は大変複雑であり、その同定作業はおそらく不可能に近いといえよう。

多数の園芸品があるため総称としての学名は以下のようにし、各園芸品は *P. × canadensis* '園芸名' とするのが良いと思う。

◇学名：*P. × canadensis* Moench ◇和名：カイリョウポプラ(筆者使用)